

編集部でテイスティング!

リーフティーよりももっと手軽なティーバッグタイプの紅茶。パースの大手スーパーマーケットでよく見かける紅茶を飲み比べてみました。それぞれ50袋入り、値段はお店によって異なりますが、約\$3前後で買える手軽なものを選びました。コップにティーバッグを入れて熱湯をそそぎ、2~3分ふたをして蒸らしてから味わってみました。

※個人の感想です。評価には個人差があります



NERADA

1882年創業のオーストラリアの紅茶メーカー

今回テイスティングした茶種：Original

感想

- あっさりとした飲みごころ。
- いやみがない。
- なんとなく不思議に甘い匂い。味はさっぱり甘い。
- 多少苦味があるが、後味はすっきり。
- カフェインが少なそうなやさしい味。
- ほうじ茶の味にちょっと似ている。



Bushells

1883年創業のオーストラリアの紅茶メーカー

今回テイスティングした茶種：Blue Label

感想

- ほんのり香りがする。
- まろやかに感じる。
- 飲みやすく苦味が少ない、いやみのない味。
- 定番の紅茶という感じ。
- 後味はあまりしない。



Dilmah

純セイロン産にこだわる1988年創業のメーカー

今回テイスティングした茶種：The Single Origin Tea 100% Pure Ceylon

感想

- 一番香りが強く感じた。
- 味がしっかりしている。
- 渋い、少し苦い。
- 濃く入れてミルクティー向きかも。



MADURA

1978年創業のオーストラリアの紅茶メーカー

今回テイスティングした茶種：Premium Blend Ceylon

感想

- 香りはきつくない。
- 香りがよい。
- 味は薄めというか、くせがない。
- 後にちょうどよい苦味が残る。
- 後味は強く残る。

その他にも、日本でも有名な Twinings や Lipton もパースの大手スーパーで買えます。



紅茶にプラスするものといえば… 人それぞれ。(編集部調べ)

- ミルク
 - 豆乳
 - 生クリーム
 - 砂糖
 - 黒砂糖
 - はちみつ
 - シナモン (その他、スパイスやミルクでインドのチャイ風に)
 - レモン
 - しょうが (風邪予防にも)
 - りんご
 - ドライフルーツ
 - ジャム (果肉がごろっと入ったものがおいしいという声も)
 - ブランデー
 - アイスクリーム
- …などなど



「ボストンティーパーティー事件」って?

18世紀後半に、イギリスが植民地アメリカに対する関税を強化したため、植民地住民はイギリス製品をボイコットした。そしてイギリスが報復としてお茶への課税をした結果、アメリカでの消費量は激減し、イギリスでは在庫過多に。今度は、その在庫のお茶を無課税でアメリカ植民地に押し付けようと、在庫を積み込んだ4隻の船がボストン港へ向かった。このような政策に怒った住民が、船のお茶を海中投棄したのが1773年の「ボストンティーパーティー事件」。この後もイギリスの弾圧と植民地の反発がエスカレートし、1775年のアメリカ独立戦争へとつながった。